

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	① 国内外における文化交流の推進と発信力の強化
			施策の小項目名	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信
主な取組	世界エイサー大会開催支援事業			
対応する主な課題	①文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
エイサーを新たな観光資源として、さらに魅力を高め、本県の観光、文化振興に結びつけていくとともに、青年交互の交流と青少年の健全育成を図る事を目的に、エイサー発祥の地、沖縄で県内外、海外のエイサー団体を集めた世界大会を実施する。						
実施主体		文化振興会				
担当部課【連絡先】		文化観光スポーツ部文化振興課 【098-866-2768】				
		民間主体による大会開催				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名	エイサー普及啓発事業						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： 大会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。	
県単等	委託	—	—	—	—	—	—		OR3年度： 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大会等の実施は見送り、今後の実行委員会の運営方法などを検討する。	
予算事業名	エイサーエキスポ委託事業費						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：	
一括交付金(ソフト)	委託	18,606	—	—	—	—	—		OR3年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	民間主体による大会開催				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	大会開催	大会開催	—	—	—	0.0%	0	大幅遅れ	平成25年度から公益財団法人沖縄県文化振興会が世界エイサー大会実行委員会の事務局を務めている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大会の開催は中止となったが、世界エイサー大会実行委員会を開催し、エイサーの普及啓発及び団体間の相互交流等について意見交換を行った。
活動指標名	世界エイサー大会の来場者数				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
	5621人	1920人	1500人	—	—	—	0.0%	0	大幅遅れ	
活動指標名	関係機関との連絡・調整				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	実施	実施	実施	実施	実施	—	100.0%			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 民間主導の事務局による関係団体及び市町村との連携強化や、過去の事業実施で培ってきたエイサーの交流ネットワークを活用した文化交流が推進できるよう側面支援を行っていく。 						<ul style="list-style-type: none"> 世界エイサー大会実行委員会を開催し、エイサーの普及啓発及び団体間の相互交流等について意見交換を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・世界エイサー大会については、平成22年度から平成24年度までの3年間は県主導による実行委員会を実施し、「エイサーを活用した新たなイベントの創出」、「エイサーの魅力を国内外へ発信」、「エイサー団体の相互交流」といった事業目的を一定程度達成した。平成25年度からは民間主導型へ移行し、県として側面的な支援を行っている。

○外部環境の変化

・大会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・民間主導の事務局による関係団体及び市町村との連携強化や、過去の事業実施で培ってきたエイサーの交流ネットワークを活用した文化交流が推進できるよう側面支援を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・民間主導の事務局による関係団体及び市町村との連携強化や、過去の事業実施で培ってきたエイサーの交流ネットワークを活用した文化交流が推進できるよう側面支援を行っていく。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	① 国内外における文化交流の推進と発信力の強化
			施策の小項目名	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信
主な取組	沖縄の音楽産業振興の推進			
対応する主な課題	②沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
<p>沖縄国際アジア音楽祭については、沖縄の音楽を文化産業として発展させることを目的として、様々なライブステージイベント等を開催している。さらなる目的達成のため、沖縄の音楽産業の発展に関する音楽カンファレンスを音楽祭と連携して開催する等し、沖縄音楽産業の効果的な振興を図る。</p>						
実施主体	県	沖縄音楽産業の振興に資する取組への支援				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課	【098-866-2768】				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
—		—	—	—	—	—	—		OR2年度：音楽イベントや音楽交流団体への支援により県内外や海外へ沖縄音楽の魅力発信し沖縄音楽産業の振興に資することができた。 OR3年度：音楽産業を側面的に支援することで、県内外や海外へ沖縄音楽の魅力発信し沖縄音楽産業の振興に資する取組を行う。
予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
									OR2年度： OR3年度：

様式1(主な取組)

活動指標名	沖縄音楽産業の振興に資する取組への支援				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	3件	3件	1件	—	100.0%	0	順調	音楽イベントへの知事挨拶1件など側面的支援により、県内外や海外へ沖縄音楽の魅力を発信した。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案								反映状況		
<ul style="list-style-type: none"> 音楽産業を側面的に支援することで、県内外や海外へ沖縄音楽の魅力を発信し沖縄音楽産業の振興に資する取組を行う。 								<ul style="list-style-type: none"> 音楽イベントや音楽交流の取組が推進できるよう側面的に支援することで、県内外や海外へ沖縄音楽の魅力を発信し沖縄音楽産業の振興に資する取組を行った。 		



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・過去に県主導で実施した音楽イベントは民間へ移管しているが、今後とも音楽産業の発展に資する支援が必要となる。

○外部環境の変化

・民間主導型の音楽イベントが各地域で開催されており、音楽イベントの多様化が進んでいる。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・今後も沖縄の音楽産業の発展に資する取組を継続して行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・音楽産業を側面的に支援することで、県内外や海外へ沖縄音楽の魅力を発信し沖縄音楽産業の振興に資する取組を行う。

様式1(主な取組)

活動指標名	外国人観光客に向けた文化観光コンテンツのセールスプロモーション				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
	実施	実施	実施	実施	多言語化 の実施	—	100.0%	9,276	順調	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の影響により、観光客誘客のPR及び舞台公演の実施が難しい状況下であったため、舞台公演等の自粛期間中において、実演家やテクニカルスタッフを活用し、沖縄の伝統芸能分野における広報用映像や多言語字幕等のソフトを作成した。		
活動指標名	沖縄国際アジア音楽祭と連携した沖縄音楽産業の発展に資するシンポジウムの開催				R2年度							進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値	—	—	—	—	—	—	—					上演機会の多い演目について、広報用映像や多言語字幕等のソフトを作成するなど観光客の沖縄の芸能に対する認知度や理解度を高めるための取り組みを行った。
活動指標名					R2年度							
実績値												
(2)これまでの改善案の反映状況												
令和2年度の取組改善案						反映状況						
<ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客を対象とした県内公演の情報発信を継続的に行うとともに、県内での公演鑑賞を行いやすい環境を整える。 						<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の影響により、観光客誘客のPR及び舞台公演の実施が難しい状況下であったため、舞台公演等の自粛期間中において、実演家やテクニカルスタッフを活用し、沖縄の伝統芸能分野における広報用映像や多言語字幕等のソフトを作成した。 						



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・引き続き、外国人観光客に向けた沖縄の文化・芸能を活用した観光コンテンツのプロモーションを実施する必要がある。

○外部環境の変化

・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、舞台公演を企画する主催者等は、感染防止対策が業種毎に策定された「業種別ガイドライン」及び「新型コロナウイルス感染症に係る沖縄県イベント等実施ガイドライン」に基づきイベントを実施する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・外国人観光客を対象とした県内公演の情報発信を継続的に行うとともに、外部環境の変化に留意しながら、県内での公演鑑賞を行いやすい環境を整える必要がある。



4 取組の改善案 (Action)

・外国人観光客を対象とした県内公演の情報発信を継続的に行うとともに、外部環境の変化に留意しながら、県内での公演鑑賞を行いやすい環境を整える。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	① 国内外における文化交流の推進と発信力の強化
			施策の小項目名	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信
主な取組	沖縄空手の振興			
対応する主な課題	③先人が築き上げた伝統文化である沖縄空手の保存・継承・発展のために、沖縄空手会館を拠点とした国内外への情報発信や空手愛好家の受入体制強化、後継者育成が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容	年度別計画				
	H29	H30	R元	R2	R3
<p>沖縄空手を保存・継承・発展させるため、国際セミナーの開催や指導者の海外派遣等を実施し、国内外における沖縄空手の普及・啓発並びに世界の空手愛好家の来訪促進を図るとともに、指導者・後継者の育成を図る。</p>	第1回沖縄空手国際大会開催による国内外空手愛好家の来訪促進		第1回沖縄空手少年少女世界大会開催による国内外空手愛好家の来訪促進		
	沖縄空手の目指すべき将来像を定めた沖縄空手振興ビジョン及び同ロードマップの策定				第2回沖縄空手世界大会開催準備
	沖縄空手国際セミナー1回				→
	空手の日記念演武祭1回				→
	海外指導者派遣2カ国				→
	沖縄空手会館を中心とした沖縄空手の情報発信、指導者及び後継者の育成				
実施主体	県				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部空手振興課		【098-866-2232】		
		ユネスコ無形文化遺産への登録に向けた取組			



様式1(主な取組)

活動指標名	沖縄空手国際セミナーの開催				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	1回	1回	1回	1回	0回	1回	0.0%	131,532	大幅遅れ	<p>令和2年度より、国際セミナーは沖縄空手の世界大会における「沖縄空手セミナー」と併せて行うこととした。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、空手の日記念演武祭は規模を縮小して実施し、また、空手指導者の派遣は事業内容を見直し沖縄空手指導者のセミナー映像を制作した。</p>
活動指標名	空手の日記念演武祭の開催				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	1回	—	1回	1回	1回	1回	100.0%			
活動指標名	空手指導者の派遣				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	2カ国	4カ国	2カ国	2カ国	0回	2カ国	0.0%			
活動指標名	沖縄空手指導者セミナー映像制作				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	映像製作実施	—	100.0%			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和2年度の取組改善案	反映状況
<p>・沖縄空手の保存・継承・発展を図るため、20年後の目指すべき将来像を描いた「沖縄空手振興ビジョン」及びその具体的な工程となる同ロードマップの着実な実現に向けて、行政、空手関係者、経済界等の連携を密にして各種施策を実施する。</p>	<p>・沖縄空手を振興するため策定した「沖縄空手振興ビジョン」及び「沖縄空手振興ビジョンロードマップ」に基づき、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ適宜事業内容を見直しつつ、県及び関係者が連携して各種施策を展開することで、「空手発祥の地・沖縄」及び沖縄空手に関する情報を国内外に広く発信し、沖縄空手の普及・発展及び指導者・後継者の育成等を図ることができた。</p>

様式1(主な取組)



3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 沖縄空手を振興するため策定した沖縄空手振興ビジョン及び同ロードマップに基づき、空手関係イベントや沖縄空手会館を拠点とした利活用事業等を展開した。

○外部環境の変化

・ 空手が2020年東京オリンピックの正式種目となったことから、「空手発祥の地・沖縄」を世界に発信する絶好の機会が生まれた。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 沖縄空手の保存・継承・発展を図るため、20年後の目指すべき将来像を描いた「沖縄空手振興ビジョン」及びその具体的な工程となる同ロードマップの着実な実現に向けて、行政、空手関係者、経済界等がこれまで以上に密に連携する必要がある。



4 取組の改善案 (Action)

・ 「沖縄空手振興ビジョンロードマップ」PDCAを踏まえ、行政、空手関係者、経済界等が引き続き密に連携して沖縄空手の保存・継承・発展を図る各施策を推進する必要がある。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	① 国内外における文化交流の推進と発信力の強化
			施策の小項目名	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信
主な取組	沖縄文化の継承、発展及び発信			
対応する主な課題	②沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
沖縄文化の継承、発展及び発信 (文化観光スポーツ部)				「琉球歴史文化の日(仮称)」の検討	琉球歴史文化の日条例の制定	琉球歴史文化の日条例に係る周知啓発
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課	【098-866-2768】				→

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名	運営費 (文化振興課)						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
	主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源
県単等	直接実施				201	—	—	県単等	OR2年度: 琉球歴史文化の日の候補日選定及び内定 琉球歴史文化の日条例の制定 OR3年度:
予算事業名	琉球歴史文化の日周知啓発事業						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
	主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源
県単等	委託					—	12,927	県単等	OR2年度: OR3年度: 琉球歴史文化の日条例にかかる周知活動等

様式1(主な取組)

活動指標名	「琉球歴史文化の日」の制定検討委員会開催数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	7回	—	—	100.0%	0	順調	令和2年3月に「琉球歴史文化の日」の制定について11月1日が候補日として発表された。それに伴い琉球歴史文化の日を定めた琉球歴史文化の日条例の制定に向け取り組んだ。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度 of 取組改善案								反映状況		
<ul style="list-style-type: none"> 「琉球歴史文化の日」に関する条例を制定し、記念事業（シンポジウム等）を実施する等して、広く県内へ周知を図る。 								令和3年3月31日に琉球歴史文化の日条例を制定した。		



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・先人たちが創り上げてきた沖縄県の歴史及び文化への理解を深め、故郷への誇りや愛着を感じられる地域社会の形成を目指すとともに、新たな歴史や文化を自らの手で創造していく意識を醸成するため、琉球歴史文化の日条例を制定した。

○外部環境の変化

・令和元年10月31日に首里城が焼失し、国内外に大きな衝撃と深い悲しみを与えた。首里城が沖縄の歴史や文化のシンボルであり、県民のアイデンティティと深く結びついていることを改めて認識させられるものであった。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

琉球歴史文化の日制定を通じ、県民が伝統文化への理解を深める機会とするとともに、伝統文化の普及継承についても自ら考えていく契機となるよう取り組む必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

琉球歴史文化の日条例を制定したことを踏まえ、翌年度以降は記念事業（シンポジウム等）を実施する等して、広く県内へ周知を図る。

様式1(主な取組)

活動指標名					R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
文化発信交流拠点の整備					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	0	順調	グローバルな文化の受信・発信機能、プロフェッショナルな芸能の創造・継承機能、専門人材の育成機能を持つ文化発信交流拠点の整備に向けて、都市計画等に関する条件整理や調整を進め、実施計画策定業務に取り組んだ。		
	調査の実施	実施計画(案)の策定着手	実施計画(案)の策定	関係団体との調整	関係団体との調整	関係団体との調整	100.0%					
活動指標名					R2年度							
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			0	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 都市計画等に関する条件整理や調整を進め、文化発信交流拠点の整備に向けた実施計画の策定に向けて関係団体と意見交換を行い、施設のあり方等について検討し、着実に取組を推進している。
活動指標名					R2年度							
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	0	順調			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 都市計画等に関する条件整理や調整を進め、文化発信交流拠点の整備に向けた実施計画の策定に向けて関係団体と意見交換を行い、施設のあり方等について検討し、着実に取組を推進している。
活動指標名					R2年度							
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			0	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 都市計画等に関する条件整理や調整を進め、文化発信交流拠点の整備に向けた実施計画の策定に向けて関係団体と意見交換を行い、施設のあり方等について検討し、着実に取組を推進している。
活動指標名					R2年度							
(2)これまでの改善案の反映状況												
令和2年度の取組改善案						反映状況						
・関係機関との意見交換、施設のあり方等について調整を進め、実施計画の策定に向けて取り組む。						・実施計画(案)に関して、関係団体等と意見交換を行い、その内容を踏まえて施設のあり方等を検討する。						



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・施設整備基本計画において施設整備エリアとして決定したエリアは、都市計画決定を受けた都市緑地であることから、都市計画関連の条件整理や調整に時間を要する。
- ・当該都市緑地の整備の事業主体は浦添市である。
- ・関係団体との意見交換において、状況の変化に対応した計画の変更等が必要ではとの意見あり。

○外部環境の変化

- ・平成30年度には琉球新報ホールが整備され、令和3年11月には那覇市に文化芸術劇場が開場する予定であり、那覇市内における劇場機能が強化される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・引き続き、浦添市をはじめとする関係機関と調整を進めるとともに、外部環境の変化も考慮しながら、実施計画の策定に向けて取り組む必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・関係機関との意見交換、施設のあり方等について調整を進め、実施計画の策定に向けて取り組む。

様式1(主な取組)

活動指標名	模造復元品の製作(累計)				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	7件	18件	36件	60件	65件	65件	100.0%	65,590	順調	<p>戦災等により失われた琉球王国時代の有形無形の文化財の模造復元製作に取り組み、令和2年度は木彫2件、漆芸2件、三線1件の5件(累計65件)が完成した。また復元資料を紹介する展覧会を宮古島市、石垣市、首里城公園で開催し、関連催事では製作者による報告会を開催した。</p>
活動指標名	展覧会の開催による発信(累計)				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	1回	4回	5回	80.0%			<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>平成27年度に作成した実施設計書を基に、平成28年度から琉球王国時代を代表する8分野(絵画・木彫・漆芸・石彫・染織・陶芸・金工・三線)の模造復元製作を開始し、令和2年度で計画した65件すべてが完成し、有形無形の文化財の復元が順調に進んだ。また復元資料の展覧会を開催し約10,000人以上が観覧した。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大を受け、8月に予定していた久米島巡回展の開催を中止し、次年度以降に延期した。</p>
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<p>・琉球王国文化の理解の向上、事業成果の活用促進のため、手わざによって復元した資料を紹介する展覧会をはじめ、製作工程で得られた知見等を発表する報告会や講演会、ワークショップ等を県内各地で開催する。</p>						<p>・模造復元製作のために監修者会議及び製作ワーキング会議を各分野ごとに実施。また製作の計画・実施・確認のために工程会議を定期的で開催し、模造復元資料を5件(累計65件)完成させた。</p> <p>・本事業の周知並びに王国文化の理解のため過年度までの復元資料を紹介する展覧会「手わざ」展を宮古島市・石垣市・首里城公園・県立芸大で開催した。また製作工程で得られた知見等を発表する報告会を実施した。</p> <p>・製作工程や模造復元品の拡大写真等を当館の公式サイトで発信し、多くの人が閲覧できるように改善した。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・復元資料を展示する「手わざ」展では、模造復元資料を通して琉球王国の文化や復元した手わざ(技術)及びその製作工程を幅広く紹介するための発信方法を工夫する必要がある。

○外部環境の変化

- ・沖縄への観光客の増加や首里城火災等により、琉球王国時代の美術工芸品等の文化財やその復元に対する関心が高まっている。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に鑑み、展覧会の開催に当たっては県イベント等実施ガイドラインを遵守するなど感染防止対策に万全を期す。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・一般の方から美術工芸品製作関係者まで幅広い興味に応えるため、製作した復元品及び事業で得た知見について効果的な発信方法を工夫する必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染拡大等の社会情勢を受け、観覧者が安心して資料を閲覧する環境づくりに取り組む必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・琉球王国文化の理解の向上、事業成果の活用の促進のため、手わざによって復元した資料を紹介する展覧会等をはじめ、製作工程で得られた知見等を発表する報告会や講演会、ワークショップ等を県内外で開催する。